研究ノート

幼稚園教員養成における小学校音楽鑑賞教材を活用した「音楽と動き」の授業実践

仲嶺　まり子　　秋元　文緒[1)]　　安部　えつ子

Practice of Lesson for “Music and Movement” in Training Nursery School Teachers by Using Appreciative Video Material for Primary Education

Mariko NAKAMINE　Fumio AKIMOTO　Etsuko ABE

【要　　旨】

本研究は、「動きを通して音楽を体験する活動」において、小学校音楽鑑賞教材の活用を試みたものである。研究目的は、動きを通して鑑賞曲を体験するという授業実践における、聴くという行為の促進および楽曲への理解の深まりについての確認である。

検証の方法としては、１）相互観察　２）授業参加による自己評価　３）授業実践前後の自由記述によるアンケートの実施であった。項目１）では、楽曲中で理解度の高い部分と低い部分の箇所があるということが明らかになった。また、項目２）では、「曲の全体的な構成を理解することができた」ということが特に高く自己評価されていることが示され、楽曲理解への効果が示唆された。さらに、項目３）では、メロディーの変化や特徴への気づき、曲の変化する箇所の具体的な捉え、歩いたりすることでさらに拍を感じ取れるようになった。などの記述が見られた。これらの結果から、「動きを通して鑑賞曲を体験するという活動」が、聴くという行為の促進および楽曲への理解の深まりに繋がっているということが示された。

【キーワード】

鑑賞教材　　音楽と動き　　楽曲理解　　保育者養成

１．はじめに

本研究は、幼稚園教員養成課程科目「表現演習」での「動きを通して音楽を体験する活動」において、小学校鑑賞教材の活用を試みたものである。

この試みは、本学専攻科初等教育専攻１年次開講「表現演習」において、鑑賞曲を活用した授業を実践し、２年次開講の小学校教員養成課程科目「芸術鑑賞」受講への興味関心を高めようとする教科間連携の取り組みである。

1)　埼玉大学　昭和女子大学

連携のための内容としては、動きを通して鑑賞曲を体験するという、リトミック的アプローチによる音楽表現活動を計画した。

2.「表現演習」科目における受講者の背景

「表現演習」は、本学専攻科初等教育専攻幼稚園教員養成課程「保育の内容および方法」の必修科目である。

主な授業内容は、以下の通りであるが、学生は、楽器や声による音表現、絵本を題材にした総合表現、詩の朗読などを通して表現の素地を培っている。鑑賞教材を活用した「動きを通して音楽を体験する活動」の授業は、「リトミック的アプローチによる表現活動」部分において実践した。

（1）開講時期：1年次通年

（2）主な授業内容

・わらべうたを題材にした、身近な道具や民族楽器を使った音表現

・絵本を題材にした、語り・歌・楽器演奏による総合表現

・様々な主人公を演じる詩の朗読

・リトミック的アプローチによる表現活動

・子どもルームにおける学生支援スタッフ活動

3．鑑賞教材を活用した授業実践の方向性

（1）研究の目的

「動きを通して鑑賞曲を体験する」という授業実践が、聴くという行為の促進および楽曲への理解を深めていくということの確認を研究目的とした。

（2）研究の方法

1）楽曲を聴きながらの身体の動きについて、チェックシートを用いた相互観察の実施。

2）授業終了時の授業参加による自己評価アンケートの実施。

3）授業実施前と後に自由記述によるアンケートの実施。

（3）研究対象および研究期間

1）対象：本学専攻科初等教育専攻
　1年、12名

2）実施日
　第1回：平成26年1月9日（木）
　第2回：平成26年1月16日（木）
　第3回：平成26年1月24日（金）

（4）鑑賞曲の選曲について

鑑賞曲は、小学校学習指導要領　音楽
第1学年及び第2学年　2内容　B鑑賞
（2）[1]を参考に「シンコペーテッドクロック」（ルロイ　アンダーソン作曲）を選曲した。

4．リトミック的アプローチによる鑑賞曲活用の実践内容

（1）第1回：平成26年1月9日（木）
13：00～14：30

1）「シンコペーテッド　クロック」[2]を鑑賞する。

2）第1回自由記述アンケートの実施。

3）司会者・黒板記録者を選出し、鑑賞後の感想を話し合う。

（2）第2回：平成26年1月16日（木）
13：00～14：30

1）『リズム　イン　サイド』（CD付）[3]による動きの体験

①エクササイズNO3「ビートに合わせて動く」

②エクササイズNO4「前進と後退」

2）「シンコペーテッド　クロック」を聴いて動く

①腕を使ったフレーズ表現（写真1）

・全員サークルになって座る。

・4拍子の指揮をしながら、楽曲を聴く。

・フレーズに合わせて、腕を内側から外側に半円を描くように、左右交互に動かしながら楽曲を聴く。

写真１

①ステップ活動
・楽曲を聴いて、自由にステップする。
・フレーズ毎に方向を変えながら、ステップする。

②布を使った活動（写真２）
・全員サークルになって立つ
・１人が柔らかな布を持ち、楽曲に合わせて円の内側をステップする。１フレーズステップしたら、次の人に布を渡す。活動に慣れてきたら、布を持つ人を２人に増やす。

写真２

（３）第３回：平成26年１月24日（金）
９：00〜10：30

１）腕を使ったフレーズ表現
・全員サークルになって座る。
・フレーズに合わせて、腕を内側から外側に半円を描くように、左右交互に動かしながら楽曲を聴く。

２）ステップ活動
・楽曲を聴いて、フレーズに合わせて方向を変えながらステップする。
・自分の足跡で描く図形をイメージし、その図形を描くようにステップする。

３）グループ表現（４人組）（写真３）
・フレーズに合わせて、１人ずつ動く。フレーズの最後にポーズを取って止まる。
・フレーズ毎に、前の人の移動した方向に順に後追いし、前の人をタッチしたりポーズをとったりする。

４）グループによる動きの創作発表。

５）自己評価アンケート（５段階評価）の実施。

６）第２回自由記述アンケートの実施。

写真３

５．方法

（１）相互観察

第３回目の授業では、前項（３）の１）楽曲のフレーズに合わせて、腕を内側から外側に半円を描くように、左右交互に動かす活動、２）フレーズ毎に方向を変えるステップ活動、４）グループによる動きの創作発表、の３つの活動において、学生の相互観察を実施した。

相互観察を実施するにあたり、まず、「シンコペーテッド　クロック」を聴きながら、楽曲構成について説明を行った。

次に、楽曲構成の内容を反映させた「観察表」（表１）の見方と記入方法について説明を行った上で、相互観察を次のように実施した。

また、「（２）観察の観点　２）次への動きの準備ができているか否か」については、実際に教師が楽曲に合わせて動きながら、準備の動きとは、どのような動きを示すのかについて提示し、評価観点の共通理解を図った。

表1　観察表

		序奏	A1	A2	A'1	A'2	B1	B2	B3	B4	B5	間奏	A'1	A'2	後奏
	拍	8	32 8×4	32 8×4	32 8×4	32 8×4	16	16 ベル	16 ベル	16 ベル	16 ベル	8	32 8×4	32 8×4	8
活動	①														
氏名	②														

1）観察方法

２人１組で、同じ人（１名）を観察する。

2）観察の観点

①速さが合っているか否か

②次への動きの準備ができているか否か

3）観察表の記入

前項２）の観点に基づき、観察結果を○×式で観察表に記入する。

（2）授業参加による自己評価

第３回目の授業終了後、授業参加による自己評価アンケート（５段階評価）を実施した。項目は、以下の通りである。

＜自己評価アンケート項目＞

1．【集中】聴くことに集中することができた。

2．【メロディー】メロディーの反復を捉えることができた。

3．【フレーズ】フレーズを捉えることができた。

4．【ビート】ビートを感じ取りながら、聴くことができた。

5．【構成】楽曲の構成を理解することができた。

（3）授業実践前と後の自由記述アンケート

1）第１回目と第３回目の授業終了時に楽曲に関する自由記述アンケートを実施した。アンケート項目は以下の通りである。

＜自由記述アンケート項目＞

1．曲を聴いて、どんなイメージを感じましたか。

2．メロディーについて感じたこと、気づいたことを書きなさい。

3．拍（ビート）を感じ取りながら聴くことができましたか。

4．曲全体の構成で気づいたことを書きなさい。

表２　観察結果№.１（全体集計）前半部分

	序奏		A1		A2		A'1		A'2		B1		B2	
	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×
全体	30	26	50	6	50	6	48	8	49	7	46	10	50	6
	53.6%	46.4%	89.3%	10.7%	89.3%	10.7%	85.7%	14.3%	87.5%	12.5%	82.1%	17.9%	89.3%	10.7%
速さ	15	13	27	1	24	4	24	4	26	2	23	5	26	2
	53.6%	46.4%	96.4%	3.6%	85.7%	14.3%	85.7%	14.3%	92.9%	7.1%	82.1%	17.9%	92.9%	7.1%
準備	15	13	23	5	26	2	24	4	23	5	23	5	24	4
	53.6%	46.4%	82.2%	17.9%	92.9%	7.1%	85.7%	14.3%	82.1%	17.9%	82.1%	17.9%	85.7%	14.3%

表３　観察結果№.２（全体集計）後半部分

	B3		B4		B5		間奏		A'1		A'2		後奏	
	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×
全体	50	6	51	5	49	7	39	17	49	7	47	9	35	21
	89.3%	10.7%	91.1%	8.9%	87.5%	12.5%	69.6%	30.4%	87.1%	12.5%	83.9%	16.1%	62.5%	37.5%
準備	25	3	25	3	26	2	21	7	26	2	25	3	19	9
	89.3%	10.7%	89.3%	10.7%	92.9%	7.1%	75.0%	25.0%	92.9%	7.1%	89.3%	10.7%	67.9%	32.1%
速さ	25	3	26	2	23	5	18	10	23	5	22	6	16	12
	89.3%	10.7%	92.9%	7.1%	82.1%	17.9%	64.3%	35.0%	82.1%	17.9%	78.6%	21.4%	57.1%	42.9%

6．結果と考察

（1）相互観察

1）問題

活動の観察を通して、「速さが合っているかどうか」と「次への準備ができているかどうか」について検証。

2）分析方法

楽曲を14の部分に区切り、それぞれの部分において○と×の評価をした後、○の数と×の数の割合（%）を算出し、速さと準備についての評価の差があるかどうかを検証。

3）結果と考察（表2、表3）

観察結果集計によると、A1部分では、速さの○の割合が96.4%と最も高い数値であったが、曲の始まりで緊張しており、集中度が高まった結果ではないかと考えられる。しかし、次のA2部分では、準備の○の割合が92.9%と速さを上回っている。

この部分では、音楽の変化を予測して体を合わせることの準備を優先させた結果、すぐには速さが合わなかったではないかということが推察される。

これらの結果から、速さを合わせることと次への準備は、相関関係にあると考えられたが、2項目の値の差については選曲の違い等も考慮しつつ、引き続き調査観察が必要であるということが示唆された。

また、メロディーが繰り返されている箇所では、○の割合がすべて80%以上と評価が高く、その反面、序奏・間奏・後奏部分では、60%前後と他の箇所に比べて割合は低いものであった。これらの評価結果から、序奏・間奏・後奏の当該箇所が十分に理解できていなかったことが推察された。特に、音楽が変化するこれらの箇所の指導を、より丁寧に行う必要があるということが示唆された。

（2）授業参加による自己評価

1）問題

授業参加により、どの項目を最も高く評価したのかを検証。

2）分析方法

記述統計量（平均値、標準偏差等）を求め、各項目を従属変数として1要因の分散分析を実施。

3）結果と考察（表4、図1）

表4　授業参加による自己評価の結果

	平均値	標準偏差
聴くことに集中することができた	4.5	0.7
メロディーの反復を捉えることができた	4.7	0.7
フレーズを捉えることができた	4.4	0.9
ビート(拍)を感じ取りながら聴くことができた	4.6	0.5
曲の全体的な構成を理解することができた	4.8	0.4

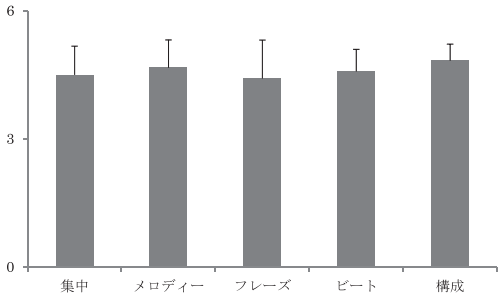

図1　授業参加による自己評価の結果

前述の分析により、F（4,44）＝2.6, $p<0.05$と有意差が認められた。さらに、どの項目同士に点数差があるかについて、post-hoc[4]の分析を行ったところ、【集中・フレーズ・ビート】に比べ【構成】が高く、【メロディー】に比べ【フレーズ】が低かった。各項目の平均値を比較すると、全てにおいて高い数値が示されており、なかでも【構成】についての数値が最も高かった。このことから、動きを伴う活動により音楽を体験したことで、「曲の全体的な構成を理解することができた」ということに繋がったと考えられた。

（3）授業実践前と後の自由記述アンケート

1）問題

自由記述アンケートにおいて、音楽的用

語の使用や特徴に関する記述、および動きについての記述を検証。

2）分析

楽曲体験と楽曲理解のつながりについて、各アンケートを「（1）心情や印象に関する内容」「（2）音楽用語や音楽的特徴に関する内容」のカテゴリーに分け分析。

3）結果と考察（表5）

【問1. 曲を聴いてどんなイメージを感じたか】の第1回目では、「楽しい・おもしろい・爽快・明るい・軽やか・優雅」など、心情や印象を表す言葉が多用されていた。第2回目では、それらの言葉の他に、「リズムが一定・雰囲気の変わるところがある・盛り上がりがある」など、音楽の内容についての記述が見られた。

【問2. メロディーについて感じたこと、気づいたことを書きなさい】の第1回目では、「流れるような感じ・ポップな感じ・分かりやすい・楽しい」などの印象に加え、音楽的特徴であるメロディーの繰り返しについての記述も見られた。第2回目では、「同じメロディーの繰り返しにちょっとずつアレンジを加えている・間奏がより曲を引き立てる・メロディーにはほとんどアウフタクトがあった」など、メロディーの変化や特徴への気づき、音楽用語の記述が見られた。

【問3. 拍（ビート）を感じ取りながら聴くことはできましたか】の第1回目では、「ビートに乗って楽しめた・「カッコカッコ」というところでビートを感じた・指揮を振りたくなるような感じ」など、軽快なリズムを感じ取っている様子が記載されていた。第2回目では、「手や頭、足を動かしながら拍を感じ取ることができた・歩いたりすることでさらに拍を感じ取れるようになった」など、動きを通しての楽曲体験により、より強く拍を感じ取れるようになったことが書かれていた。

【問4. 曲全体の構成で気づいたことを書きなさい】の第1回目では、「盛り上がるところは一気に盛り上がるような感じがした・曲調の変化するときの差がすごい・曲の展開に強弱、物語がある」という曲の変化に関する記述は見られるものの、楽曲全体を大きく捉えた内容であった。第2回目では、「初めと中盤あたりのリズムが変わる・途中から一気に急展開で目覚まし時計が鳴り響いたと思ったら、最後はまた最初の曲調に戻った・迫力があるところを間奏が少し静かになることでより盛り上がっていた」など、曲の変化する箇所についての具体的な記述が見られた。

これらの結果から、動きを通して鑑賞曲を体験することで、楽曲理解が深まったこと。メロディーの特徴や変化、リズムや音の違いを感じ取ることで、より楽曲を楽しんで聴いていることが明らかになり、聴くという行為の促進に繋がっていたことが示された。

7．まとめ

本研究では、リトミック的アプローチによる「動きを通して鑑賞曲を体験する」ことで、聴くという行為の促進や楽曲への理解の深まりについて検証を行った。

検証の手法として、学生相互の観察評価・授業参加による自己評価・授業実践前後の自由記述アンケートを実施した。観察評価については、筆者担当の科目「保育内容Ⅴ」において、発表活動時に実施している「相互評価」手法にヒントを得て取り入れた。このことは、授業内容が、動きを伴う活動であったため、観察が成立し、成果の検証に効果的であったと考えられた。

観察評価では、序奏・間奏・後奏での○の割合が他の箇所に比べ数値が低く、音楽の変化する箇所での丁寧な指導の必要性が示唆された。また、今回、2つの観察評価観点を提示したが、これらの観点の適正等については、今後の課題としたい。

その他、授業実践後の自由記述アンケートに

おいても、音楽の内容に関する記述、メロディーの変化や特徴に関する気づき、曲の変化する箇所の具体的な記述などが増え、楽曲理解の得られていることが示された。

このような結果から、「動きを通して鑑賞曲を体験するという活動」が、聴くという行為の促進および楽曲への理解の深まりに繋がっていくということが確認できた。今後は、これらの結果をふまえ、「音楽と動き」のより効果的な授業構成に役立てていきたい。

付記

本稿は、平成26年度ダルクローズ音楽教育学会第47回研究例会口頭発表「幼稚園教員養成における鑑賞教材を活用した授業実践からみえてきたもの」を加筆修正したものである。

また、本研究を遂行するにあたり、別府大学文学部人間関係学科矢島潤平准教授にご協力いただきましたことをここに記し、感謝の意を表します。

註

1）小学校学習指導要領　音楽　第１学年及び第２学年　２内容　B 鑑賞：（２）鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア　我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じとりやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい曲。

イ　音楽を形作っている要素の働きを感じとりやすく、親しみやすい楽曲

ウ　楽器の音色や人の声の特徴を感じとりやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲。

2）音源は、『小学生のクラッシック（低学年用）DISK２』COCG－13384－82　Columbia を使用。

3）音源は、ジュリア・ブラック＋ステファンムーア著　神原雅之編訳　『リズム・イン　サイド』2002 西日本法規出版（株）の書籍付き CD を使用。

4）post-hoc：一要因の分散分析により有意差がみられた後、どの項目間に差があるか分析する方法。今回は Bonferroni による多重比較にて算出した。

参考文献

1）秋元文緒　仲嶺まり子　善本桂子著「動きを通して学ぶ音楽の指導手法に関する一考察－2012 DSA NATIONAL CONFERENCE におけるワークショップ「Eurhythmics」の学びを通して－」別府大学短期大学部紀要　2014　第33号　pp. 151～158

2）工藤雅之著「鑑賞の授業と記録についての考察－音楽に相応しい言葉の使い方とは？－」　日本音楽教育学会第44回大会口頭発表 M－７資料　2014

3）伊藤仁美著「保育者に必要とされる音楽表現力の育成に関する一考察（３）こども教育宝仙大学紀要　2012　Vol. 3　pp. 21～31

4）有本真紀　阪井恵　山下薫子編著『教員養成課程小学校音楽科教育法』2010　教育芸術社

5）全日本音楽教育研究会中学校部会編　墨田区立錦糸中学校内会長　原田徹『全日本音楽教育研究会中学校部会会報』2009. 12. 30　通巻第59号　pp. 2～5

6）酒井美千代著「ボールを使ったリトミック実践の意義と考察―小学校音楽科での授業実践を通して―」日本ダルクローズ音楽教育学会創立35周年記念論文集『リトミック実践の現在』2008　開成出版　pp. 43～50

7）五十嵐務著「ダルクローズ・リトミックの「高等学校における鑑賞教育」への応用―リズム・演奏・鑑賞―」ダルクローズ音楽教育研究　1999　第24号　pp. 26～35

表５　自由記述アンケート結果

	第1回アンケート	第2回アンケート
１．　曲を聴いてどんなイメージを感じましたか。		
⑴心情や印象に関する内容	・優雅な感じの中におもしろさがある。	・優雅な感じと共に楽しさがある。
	・明るく、ステップふみたくなるようなイメージ。	・明るく愉快な感じ。
	・楽しい印象の曲でこの曲を聴くと掃除がしたくなる気持ちになった。	・明るく楽しい感じ。
	・広い自然の中で動物がいる中、観客もいないところでオーケストラが弾いている感じ。	・自然をずっとイメージしていた。
	・朝の爽快な目覚め。	・目覚まし時計が鳴り響いて、爽快な目覚め。
	・時計の針の音のような感じがした（チクタク、チクタク）。	・朝の目覚ましのようなイメージ。
	・壮大な感じ、迫力がある。	
	・愉快で楽しい。	・楽しい印象。
	・軽やか。	・軽やか。
	・外国の映画に使われそう。	
	・楽しそうな感じのするイメージ。	・楽しいイメージ。
	・少しディズニーのようなイメージ。	
	・かわいらしい。	・流れるようなところもある。
	・上品な感じがした。	・なめらか。
⑵音楽用語の使用や音楽的特徴に関する内容	・明るくテンポの良い印象。	・楽しくリズムにのりやすいイメージ。
	・いろんな音が入っており、楽しいイメージ。	・いろいろな楽器を使っていて、かわいらしい曲というイメージ。
		・たくさんの楽器の音があって楽しい雰囲気
		・明るく楽しい曲、途中に雰囲気の変わるところがあり、飽きずに最後まで聴けた。
	・いろいろなビートの流れが重なり合っていて面白い。	・リズムが一定でわかりやすい。
		・盛り上がりがある。
２．メロディーについて感じたこと、気が付いたことを書きなさい。		
⑴心情や印象に関する内容	・流れるような感じがした。	・メリハリがある中に流れるような感じがする。
	・全体的にゆったりしている感じがした。	・ゆっくりと流れていく感じがした。
	・楽しい感じのメロディー。	・頭の中に残り、とても楽しくなること。
	・楽しい中にも落ち着きがあるメロディーでゆったり聴けた。	・とても耳に残りつい口づさんでしまう。
	・楽しいようなリズムのところもあれば、流れるようなところもあり、楽しい感じだと思った。	・リズムが取りやすく、のりやすい。
	・軽快で愉快な感じ。	・リズムにのりやすい。
	・リズムが良くて好き。	・調子のよいメロディーである。
	・ポップな感じ、リズミカル。	
	・流れるように音楽が流れていて優雅に聴こえた。	・流れるような音楽なので、曲の構成がつかみやすい。

⑵音楽用語の使用や音楽的特徴に関する内容	・同じメロディーが繰り返されていた。 ・優雅に流れているメロディーに聴こえるけど、リズムのある感じがした。 ・同じメロディーが繰り返されているが、楽器が違ったりしたら印象が全く違った。 ・分かりやすいメロディーが繰り返されていた。	・同じメロディーの繰り返しにちょっとずつアレンジを加えている。 ・一定のリズムで途中から雰囲気が変わる。 ・同じメロディーの繰り返しが多い。 ・メロディーにはほとんどアウフタクトがある。 ・間奏がより曲を引き立てる。 ・リズムのあるところと優雅に流れているところがあった。 ・曲調などの変化がすごく耳に入りやすかった ・リズミカルでたまにテンポが変わる。
３．拍（ビート）を感じ取りながら聴くことはできましたか。		
⑴心情や印象に関する内容	・ビートに乗って楽しめた。 ・わかりやすかった。 ・「カッコカッコカッコ」という音が印象に残りました。 ・指揮を振りたくなるような感じだった。 ・リズムにのって楽しめた。 ・リズム（拍）を取りながら聴いた。	・サビの前の時計の針のような音の所で感じた。 ・リズムのあるところと優雅に流れているところがあった。 ・かなりできた。 ・拍の違いがわかった。 ・わかりやすかった。 ・ステップを踏んだり、指揮をとりたくなった。
⑵音楽用語の使用や音楽的特徴に関する内容	・サビの部分の「カッコカッコ」というところでビートを感じた。 ・木製の「カッコン」をいっていた楽器で拍を刻んでいる感じがした。 ・木の音やベースなどがリズムを刻んでおり、拍をつかみやすいと思った。 ・８分音符のビートと４拍、２拍が感じ取れた。 ・拍を「カッコン」で感じとることができた。	・常に拍にのせて鳴っている楽器があるため感じ取りやすかった。 ・８拍、16拍を感じながら聴くことができた。 ・手や頭、足を動かしながら拍を感じることができた。 ・歩いたりしたことでさらに拍を感じ取れるようになった。 ・前に歩くのを切り替えて、後ろに歩いたりして感じ取ることができた。 ・手や体を動かすことで、より感じた。
４．曲全体の構成で気づいたことを書きなさい。		
⑴心情や印象に関する内容	・全体的に打楽器のカコカコがよく聴こえた。 ・たくさんの楽器が面白い。 ・盛り上がるところは一気に盛り上がるような感じがした。 ・メロディーの中にある「カッコンカッコン」がリズムを刻んでいて踊りたくなるような楽しい曲だと思いました。盛り上がりがわかりやすかったです。	・打楽器が目立っていた。 ・パーカッションの音が目立っている。 ・盛り上がるところとメロディーのところにメリハリがあった。 ・リズム遊びに組み込みやすいこと。

	・身近にありそうなものを使って構成しているような気がする。 ・誰かの休日みたいなのをイメージして作ったのかな？ ・基本のメロディーが繰り返される中に所々違う展開があり、飽きずに最後まで聴けると思った。 ・構成といわれるとあまりわからないが、様々な楽器の特徴を活かしていて全体的に明るい、楽しい感じだった。 ・打楽器も入っていて、音が大きくなったり小さくなったりの強弱があった。 ・最後のしめに向かって、曲が構成されている気がした。	・似た音の構成の集まりでできている。 ・同じメロディーの繰り返しで記憶に残りやすい。 ・いろいろな楽器が使われていて、楽器によってはリズムが変わるところがある。 ・初めと一番盛り上がるところで音の厚みがある。
⑵音楽用語の使用や音楽的特徴に関する内容	・曲の展開に強弱、物語がある。 ・曲調の変化するときの差がすごい。	・反復の多い曲。 ・強弱がある。 ・ビートが刻める。 ・拍が変わっていることがわかった。 ・授業で習った形式（A、B、A'）が分りやすかった。 ・初めと中盤あたりのリズムが変わる。 ・32拍で１つのくくりということ。 ・中間部は16拍で１つのくくりということ。 ・曲で迫力があるところを間奏が少し静かになることでより盛りあがっていた。 ・途中から一気に急展開で目覚ましが鳴り響いたと思ったら、最後はまた最初の曲調に戻った。 ・覚えやすいメロディーの繰り返しの中で、別の展開があった。